



第 3 章

柏市の歴史文化の特徴

第3章 柏市の歴史文化の特徴

「歴史文化」とは地域に固有の風土の下、先人によって生まれ育まれ、時には変容しながら現代まで伝えられてきた知恵・経験・活動等の成果及びそれが存在する環境を総合的に把握した概念であり、地域の歴史や文化にまつわるコンテキストで、地域らしさ、地域の特徴をあらわすものである。

また、序章で述べたとおり、本書では「文化遺産」とそれを取り巻く自然環境や「文化遺産」で構成される景観、「文化遺産」を支える人々の活動等の周辺環境とが一体となったものを「歴史文化」の定義とした。

これまで第1章で柏市、第2章で市内の文化遺産についての概要を記した。1-3. 歴史的背景では柏市の歴史を通史的に記述しつつ、本市に特徴的な事象でまとめた。2-3. (2) 地区毎の文化遺産では、地区毎の代表的な文化遺産から地区の特徴となる文化遺産の分類をおこなった。

これらの時代毎のまとめ及び地区毎の文化遺産の分類から、柏市の歴史文化の特徴のキーワードを抽出したものが図3-2の表である。さらに、このキーワードから柏市の歴史文化の特徴を把握・設定した過程を示したものが図3-3の表である。

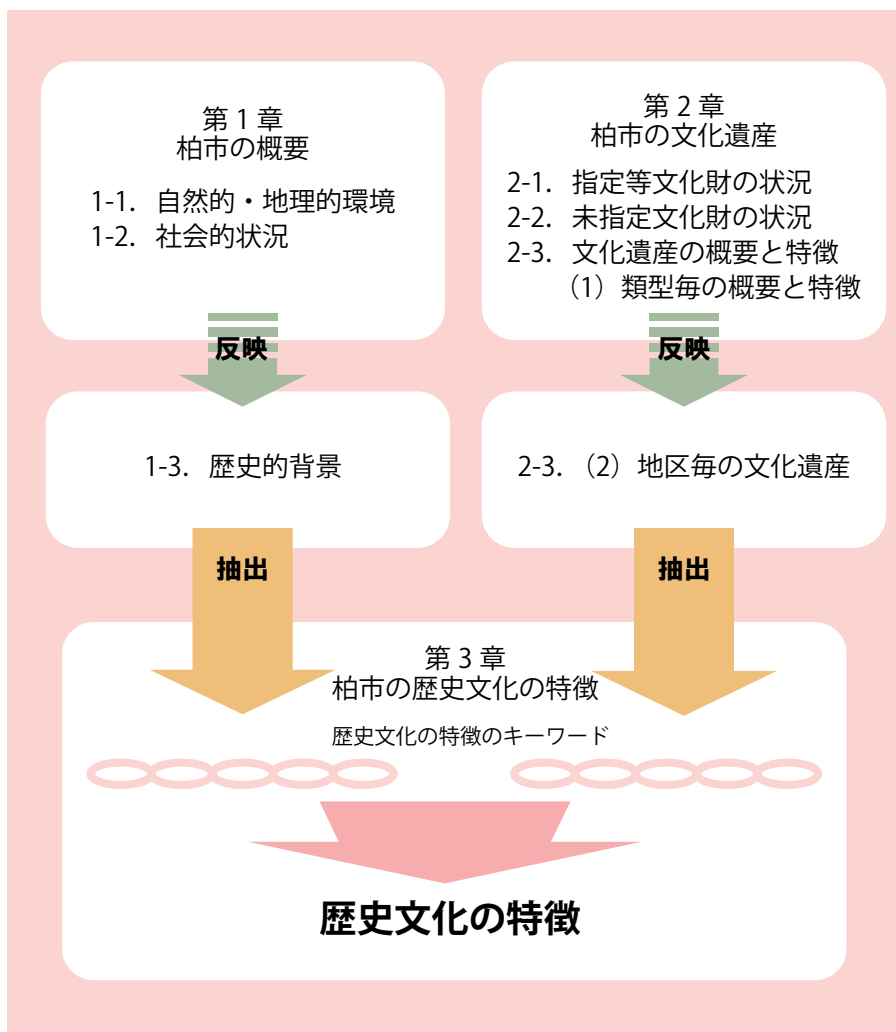


図 3-1：歴史文化の特徴把握の模式図

1-3の各タイトル、2-3での地区毎の文化遺産の分類から、歴史文化の特徴のキーワードを抽出する。

時代	1-3 歴史的背景	2-3 文化遺産の概要と特徴 (2) 地区毎の文化遺産 文化遺産の分類						歴史文化の特徴 キーワード
		田中	富勢	柏	土	風早	手賀	
旧石器	豊かな動物資源 下野―北総回廊上の生物の移動 下野―北総回廊上のモノの伝播	県内屈指の遺跡の分布	遺跡の分布				遺跡の分布	⇒ ■豊かな動植物資源 □ハンター達の移動ルート ■旧石器時代の一大中心地
縄文	奥東京湾、古鬼怒湾の豊かな資源 集落の形成、共同体による定住化			貝塚の存在				⇒ □豊かな海産資源と動植物資源 □大規模集落跡 ■縄文時代中期の一大中心地 ■古鬼怒湾を介したネットワーク
弥生	香取内海をめぐる地域圏の形成			後期の貝塚			後期の貝塚	⇒ ■香取内海を介した地域圏
古代	他地域や畿内政権の影響	帆立貝式古墳		古墳時代出現期の古墳			古墳時代出現期の古墳	⇒ □他地域から搬入された土器 □畿内政権との関係 □他文化の受け入れの多様化
奈良・平安時代	律令国家の成立と東海道の整備、 茜津駅の設置 仏教の伝来、庶民への浸透			古墳時代後期からの大集落			古墳時代後期からの大集落	⇒ ■街道の整備、香取内海を介した往来 ■水陸の結節点、物資の中継地点 ■仏教の広がり
古代末〜中世	治安の悪化と平将門の台頭 香取内海周辺を舞台とする平将門の伝説 相馬御厨の誕生と土地開発 「湖沼の荘園」相馬御厨 中世に遡る社寺や地名 相馬氏の衰退 戦乱のはじまりと平和への祈り		平将門関係資料				平将門関係資料	⇒ ■香取内海と平将門の伝説 ■相馬氏と相馬御厨 □香取内海を介す物資の中継地点 □現在の集落の基盤の成立 ■水上交通の要所に築かれる城 ■戦乱の中の祈り □祈りが込められた仏像や石塔
近世	碁石まじりの土地支配 幕府の道路整備と水運の整備 利根川舟運の発展と河岸の賑わい 利根川の治水利水、水害との戦い 江戸への食材の生産と流通 観光、人々の旅行の発展 手賀沼の新田開発 小金牧の管理と開発	田中藩本多氏、船戸陣屋跡	布施弁天石鳥居		藤心陣屋跡、 広幡八幡石鳥居		神明社石鳥居	⇒ ■徳川幕府の支配 ■利根川舟運によるヒト、モノの往来 □水陸の結節点、物資の中継地点 ■利根川の治水・利水 ■手賀沼の干拓 □人々の生業 ■民間信仰の盛行・五穀豊穡への祈り ■観光地と講の流行 ■徳川幕府直轄の小金牧 ■近世以降の住宅 ■江戸への食糧生産
近現代	千葉県誕生と小金牧の開墾 利根運河建設と周辺の賑わい 鉄道の開通、道路網の発展と水運の衰退 たび重なる自然災害(水害) キリスト教の解禁と手賀正教会の設立 柏駅の誕生と周辺の町場化 大レジャーランド構想「関東の宝塚」 レジャーランドから軍郷都市へ 戦後の開墾・開拓 軍郷都市からベッドタウンへ スマートシティの先駆け 千葉県北西部の陸上交通の要衝、商業拠点 柏から世界へ! 日本一の汚濁湖沼からトリアススロン開催へ	利根川舟運と利根運河	利根川舟運、 布施河岸、 うなぎ道	呼塚河岸、 戸張河岸、 うなぎ道			鮮魚街道	⇒ ■利根川の治水・利水 ■利根川舟運によるヒト、モノの往来 ■小金牧の開墾 □水陸の結節点、物資の中継地点 ■手賀教会の設立 □陸上交通の要衝へ ■柏駅周辺の町場化 □大レジャーランド構想 ■戦時の軍郷都市 ■戦後の開墾 ■戦後の団地建設

図 3-2：歴史文化の特徴のキーワードの抽出

■：次頁歴史文化の特徴の抽出に使用したキーワード

図 3-2 で抽出したキーワードより，柏の歴史文化の特徴を以下のように把握し，設定した。

キーワード	歴史文化の特徴	
豊かな動植物資源	⇒ ① 豊かな自然環境	
旧石器時代の一大中心地		
縄文時代中期の一大中心地	⇒ ② 手賀沼と下総台地に支えられた くらしと生業	
古鬼怒湾を介したネットワーク		
香取内海を介した地域圏		
近世以降の住宅		
香取内海と平将門の伝説	⇒ ③ 国との関係と柏のちから	
相馬氏と相馬御厨		
水上交通の要所に築かれる城		
徳川幕府の支配		
徳川幕府直轄の小金牧		
戦時の軍郷化		
戦後の団地建設		
利根川の治水・利水		
手賀沼の干拓		⇒ ④ 困難を乗り越えて切り拓く 先人たちのちから
小金牧の開墾		
戦後の開墾	⇒ ⑤ 柏の風土が育んだ寛容のころ	
仏教の広がり		
戦乱の中の祈り		
民間信仰・五穀豊穡への祈り		
手賀教会の設立	⇒ ⑥ 交通の要衝・柏のにぎわい	
利根川舟運によるヒト，モノの往来		
街道の整備，香取内海を介した往来		
水陸の結節点，物資の中継地点		
江戸への食糧生産		
観光地と講の流行		
柏駅周辺の町場化		

図 3-3：歴史文化の特徴の把握

①豊かな自然環境

全ての歴史文化の土台となるのが、元来ある自然環境である。先人たちはこの自然環境の変化に順応しながら歴史文化を築いてきたと言える。旧石器時代には下野―北総回廊を行き来する動物資源、縄文時代にはこの回廊と縄文海進による内海からとれる動植物資源に恵まれてきた。

弥生時代から中世にかけては縄文海退後も残った香取内海、近世・近代は利根川舟運と手賀沼の恵みと交通に頼ってきたといえる。いずれも共通して低平で広大な下総台地の自然の恵みも享受してきた。

現在は交通手段の変化、水質汚染などの影響で水との関係が薄れてきているが、それでもなお、市北側を流れる利根川とその周囲の河川敷、手賀沼や手賀沼に注ぐ河川とその周囲に広がる谷津、低地を取り巻くように存在する下総台地の斜面林が景観上の特徴となっている。

②手賀沼と下総台地に支えられたくらしと生業

古来から手賀沼（古鬼怒湾、香取内海）と下総台地（下野―北総回廊）の自然の恩恵を受けながら人々が生活してきたことが、市内各所で実施された遺跡の発掘調査によって明らかとなっている。特に縄文時代は奥東京湾、古鬼怒湾に挟まれた下総台地上の豊かな自然環境に支えられ、大規模集落が営まれたことが判っている。

その後も、古代～中世にわたり香取内海を中心とした生業や交易が、土地利用のし易い低平で広大な下総台地上で行われ生活が営まれてきた。近世・近代においても手賀沼や利根川の豊かな資源とこれを利用した舟運により、人々の生活は支えられてきた。

私たちの足下にある下総台地と眼下に広がる手賀沼が、古来から柏に住む人々の基盤となり続けているのである。

③国との関係と柏のちから

旧石器時代から縄文時代にかけて、自然が産み出す恵みを求めて人々が市域に集まったことは、遺跡数の多さが物語っており、全国的に見ても柏市は中心的な地域であった。弥生時代の終わり頃からは中央との関係に左右され集落のあり方や出土する遺物などにもその影響が見てとれるようになる。

古代には時の朝廷に反旗を翻した「平将門」が登場し、国司の圧政に苦しめられていた民衆からは英雄として崇められた。彼らは後に鎌倉幕府の原動力となる東国の武士団として中世の世を牽引していくこととなる。

近世には、江戸の近郊に位置することから、その地の利を活かし、利根川舟運の中継地点や江戸への農産物やうなぎや鴨の供給地として発展した。

近代には、首都東京の近郊都市として発展し、戦時中には首都防衛の軍郷都市として、戦後は東京のベッドタウンとして発展につなげてきた。

柏の人々はその時々々の世相に応じ、臨機応変に力強く対応してきたといえる。現在もスマートシティの先駆けとも言うべき活動が行われており、各時代の要請に応じたくましく突き進む柏のちからは、古来から培われてきた歴史文化が底流に流れているのである。

④困難を乗り越えて切り拓く先人たちのちから

原始の時代には人々は豊かな自然環境と共存しながら生活を営んできた。古代～中世も、下総台地の山林を切り開いて集落をつくり、農地を耕し、里山・里海を整備し自然と共存しつつ生活をしていたと思われる。

近世に利根川東遷事業が行われると、手賀沼周辺は水害との闘いを余儀なくされる。また、小金牧の開墾におけるやせた原野の開墾は困難で、凶作や自然災害、開墾会社の解散なども相まって過酷さを極めた。

これらの困難にも負けず、柏の人々は力を合わせ、土地を切り拓いてきた。特に、小金牧の開墾は柏の近代の幕開けとなった大きな出来事で、柏の発展の礎となったと言っても過言ではない。

⑤柏の風土が育んだ寛容のこころ

外部からの影響等の心配事の絶えない中で、人々は常に心のよりどころを求め祈りを捧げてきた。特に人々の平和への希求が刻まれた石造物は市内各地に残り、五穀豊穡のまつりごとは現在も柏の各地にその痕跡や風習が残っている。

近世には宗派の枠を越えた「東葛印旛大師」がはじまり、近代には宗派の垣根を越え、多様性を認めた弁栄聖人を産み出し、キリスト教の禁教が解かれた直後に手賀教会が設立されるなど、それらの寛容性は柏の風土が育んだといえる。比較的温暖で自然災害の少ない環境と多種多様な人々が行き交う立地が多様性を認める風土を育んだのであろう。

⑥交通の要衝・柏のにぎわい

柏の交通に関するキーワードは、古鬼怒湾、奥東京湾、下野―北総回廊、香取内海、古代東海道、水戸街道、日光東往還、鮮魚街道、うなぎ道、利根川舟運と枚挙にいとまがない。

旧石器時代・縄文時代には豊かな動植物資源を求め柏に人々が集まり、当時一大中心地となる。古代から中世にかけても、香取内海を中心として人々は行き交っていた。

近世には利根川舟運の中継地として食材が江戸まで運ばれ、河岸場は、一時期成田山より賑わったと言われる布施弁天東海寺のように観光地として栄える地域もあった。また、各村々では聖地巡礼や社寺参詣を目的とした参詣講が盛んとなり、柏の河岸からは多くの旅行者が各地へと旅立った。

近代には利根川舟運に利根運河が加わり、運河周辺はますます活況を呈した。その後、鉄道の物資輸送が主流となり、現在の常磐線、東武野田線が敷設されると、舟運から陸運に主役の座は奪われていく。

近代以降、鉄道・自動車輸送の結節点にある柏は、千葉県北西部の商業拠点、県内屈指の商業都市として発展してきたことは言うまでもない。